



**中邑 賢龍 (NAKAMURA Kenryu)**

東京大学先端科学技術研究センター  
人間支援工学分野担当 教授

広島大学教育学部教育学研究科博士課程後期 (実験心理学専攻)  
単位取得満期退学。  
博士 (心理学)。

---

香川大学教育 学部助手・講師・助教授、米国カンザス大学客員研究員、ウィスコンシン大学客員研究員、英国ダンディ大学客員研究員、東京大学特任教授を経て 2009 年より現職。

専門は実験心理学。障害のある人への代替テクノロジーの開発とその適用に伴う心理的変化の研究に従事。近年は、新規技術開発よりもすでにあるテクノロジー (アルテク) の活用に焦点を当てた「利用の科学」を推進中。困難を抱える人たちとともに働きながら当事者の生活にリアリティを有した研究を心がける。「学校教育における携帯電話活用」、「入試における合理的配慮」、「多様性に対応する就労研究」、「重度重複障害のある子どものコミュニケーション手法の確立」、「不登校の中の異才発掘」などのプロジェクトを通じ、障害を越え困難を抱える人々を包括した未来の多様性ある社会システムの構築を目指す。

主な著書に、『タブレットPC・スマホ時代の子どもの教育』(近藤武夫との共著; 明治図書、2013)、『バリアフリー・コンフリクト: 争われる身体と共生のゆくえ』(福島智との共著; 東京大学出版会、2012)、『発達障害の子どもの「ユニークさ」を伸ばすテクノロジー』(中央法規、2007)、『福祉情報技術』(ローカス、2003)、『障害者のための小さなハイテク』(福村出版、1987) などがある。